

まふで KOSO!

過去の記事は
こちら

学び通じた居場所づくり有効

子どものためを思って「勉強しなさい」と言っても、子ども本人は「勉強なんてしたくない」と言い、宿題すらなかなか取り組んでくれない。そんな悩みを持つ親御さんは少なくありません。一方、子どもは親や教師からの期待に押しつぶされそうになっていたり、「なんで勉強なんてしなきゃいけないの?」という、根源的な問いにひとりで向き合っていたりもします。

私は、地域における子ども・若者支援について研究しています。学齢期の子どもと保護者を悩ませる課題の筆頭に挙がってくるのが勉強にまつわるものです。「勉強」とは、「〇〇のため」という手段にとどまらず、「わかること・知ること」それ



学習支援室じむに通う生
徒と大学生＝岐阜市で

自体が喜びであり、目的にもなりうるものですが、現行の学校教育では、「強いられる学習」となっています。

この圧力を解除し、学習本来のあり方を探るために、さまざま研究・実践が積み重ねられ

ていますが、とりわけ私が注目しているのが、地域における学習支援の取り組みです。

学習支援は、勉強することを



南出吉祥さん

前提とした「塾」とは違い、「勉強に向き合うこと」自体を支えるという部分を大事にしています。家庭環境や発達特性などから「勉強どころじゃない」という子どもへの対応も含め、学校や家庭に対する愚痴を聴いたり、一緒に遊ぶ時間を設けたりしながら、「学びを通じた居場所づくり」に力点を置いて運営されています。

また、地域の学習支援活動は、多様な人々との出会いや交流の機会にもなっています。人々との交流を通じて、学校の勉強だけでなく、地域や社会、他者関係についても学んでいくことができます。

各地の教室ごとに、担い手や場所の雰囲気、活動内容は異なってきますが、本学の学生たちが立ち上げた「学習支援室じむ」は、子どもたちと年齢の近いお兄さんお姉さんという立ち位置で子どもたちに向き合っています。

他者と比較することなく、自分なりのペースで安心して過ごせる居場所ができることで、事あるごとにキレがちだった子が集中して学習に取り組めるようになったり、感情を押し殺してうつむきがちだった子が、明るく話してくれるようになった

りします。結果として勉強にも向き合えるようになっていきます。

子どもとその家族を苦しめる「勉強」の圧力をほどき、「勉強」にまつわる家庭間格差を埋め、「学習本来の意味」を学校教育へと投げ返していくこと。学習支援の課題は尽きませんが、こうした活動の参加者として、担い手として、身近な地域学習を支援している拠点にぜひ足を運んでみませんか?

みなみで・きっしょう 地域科学部教授。教育学をベースに、地域における子ども・若者の育ちとその支援活動を研究している。一般社団法人・ぎふ学習支援ネットワーク代表理事。

